学びの深化プロジェクト（第２期）研究主題一覧

A. 主に育成する資質･能力

Ⅰ	認知能力と非認知能力の一体的育成	学校卒業後も学び続ける児童生徒を育成するには、認知能力と非認知能力の一体的育成が不可欠である。一体的育成には教科等の目標や特性を踏まえつつ、汎用的な資質･能力に繋げていく視点が必要である。認知能力と非認知能力の双方の関係を視野に児童生徒の実態に応じた育成したい資質･能力の具体像を示し、評価指標の設定も含め児童生徒の認知能力と非認知能力の一体的育成を目指す。
Ⅱ	論理的思考力の育成	習得した知識や技能を活用するには、論理的な思考を展開する能力が不可欠である。また、逆に論理的な思考を展開するには、それに耐えうる知識量や技能の習熟が必要である。その両面の見方から児童生徒の資質能力の向上を目指す際に、教育活動を通して育成したい論理的思考力の具体像を児童生徒の実態に即して示し、評価指標の設定も含め児童生徒の論理的思考力の育成を目指す。
Ⅲ	児童生徒の主体性（「学びに向かう力」）の育成	「学びに向かう力」の涵養は喫緊の課題であるが、その要素は多岐に渡っており、育成方法や評価については研究の必要がある。認知能力を引き上げていく可能性も指摘されている非認知能力と親和性の高い「学びに向かう力」であるが、児童生徒の実態に応じた「学びに向かう力」の具体像を示し、評価指標の設定も含め児童生徒の「学びに向かう力」の涵養を目指す。
Ⅳ	情報活用リテラシーの育成	児童生徒の情報活用リテラシーとは、ICT機器を使いこなすことにとどまらず、情報そのものの扱いや活用することも包括するものである。情報の入手の仕方といった基礎的な部分から、例えば思考ツールを用いた活用などを通して、児童生徒の実態に応じた情報活用リテラシーの具体像を示し、評価指標の設定も含め児童生徒の情報活用リテラシーの育成を目指す。

B. 主な手法

①	ICTの活用	GIGAスクール構想による1人1台端末環境に合わせて、ICTを活用したクリエイティブな授業の構築は急務である。従来の授業形態に加えてICTを活用したハイブリッド型の授業を目標達成の手法として研究を進めていく。
②	PBL（課題解決型学習）の活用	VUCAの時代に対応した資質･能力を育成するためには、児童生徒が社会に出た際に必要となる「正解のない問い」を教科学習等に取り入れることが有効な手段の一つであるとされる。PBLを目標達成の手法として研究を進めていく。
③	カリキュラム･マネジメントの視点の活用	児童生徒が社会に出た際には、教科や領域を統合した力が必要である。また、そのような力を身に付けるには長期間をかけた取組が必要である。教科、学年を越えた視点や、地域社会との繋がりなどでのカリキュラムを目標達成の手法として研究を進めていく。
④	校内組織活性化	学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童生徒の将来に生きる3つの資質･能力を育成するには教員や校内組織が同じ方向を向き、有機的に連携しながら教育活動を進めていく必要がある。教員の意識の統一に向けた取組や研修を目標達成の手法として研究を進めていく。

＜研究主題の設定方法＞

第1段階　Aより育成する資質･能力を1項目設定する

第2段階　BよりAを達成するための手法を1項目設定する

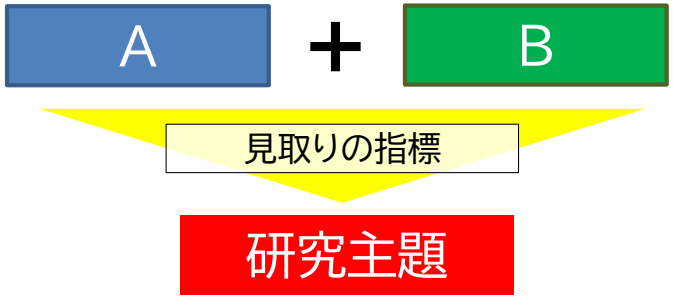
第3段階　Aで選択した力の定義(その中のどこに注目して育成するか)を設定する

第4段階　第3段階で育成する力の効果検証の指標を設定する

【留意点】

(1)既存の評価項目等があればそれを活用、ない場合は見取るための指標作成についての計画等を作成こと

(2)学力調査等を指標とする場合、府平均や全国平均との比較は、年度ごとの問題の難易度が違う等正確な比較分析が難しいことから、平均点の比較を指標とすることは避けること

最終段階　第3段階で定義した力をBを使ってどのように育成するかを具体的に計画する

（主題設定のイメージ）